

<p>書名 項目</p>	<h1>中学書写</h1> <div style="text-align: right;"> 38 光 村 </div>	
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「字形の整え方」と「文字の大きさと配列」のポイントとなる事柄を、書き込むことで理解度を確認しながら学習する構成になっている。 ○目的や必要に応じて楷書と行書を適切に使い分けさせることができるように、写真や絵を用いて示し、理解が深まるようにしている。 ○言語生活を豊かにするためのコラムが掲載され、手書き文字のよさを伝えるための学習や生活に役立つ資料を写真や図版によって示している。 	
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」を示している。「なぞり書き」や書き込み式の箇所を確認することによって、文字のバランスを確認させるようになっている。 ○毛筆では、点画の種類と筆使いについて、筆圧や穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。毛筆で学習した筆使いを生かして、硬筆に発展できるような構成になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の取組において段階を追って章立てられ、ねらいを意識しながら取り組ませるよう構成している。また、教科書に文字のポイントを記入させたり、手本を見ながら練習したりする欄を設けることで、考えながら習得させるよう構成している。 ○巻末の資料で、習得した内容を発展させるための手本や、手紙の書き方、新聞の書き方など生活において活用させる機会を設けている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標（学習の見通しをもつ）」→「学習の窓（学習・活動に取り組む）」→「学習を振り返る（次の学習に生かす）」という「学習の流れ」をわかりやすく示している。 ○「学習を振り返る」欄は、「できた＝○、もう少し＝△」を書き込めるようになっており、学習の目標と連動した自己評価をすることができ、学習の達成度がわかりやすい。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○例文に古文を引用しているところがあり、国語で学習したことを書くことによって、発展させる構成になっている。 ○毛筆の筆使いで学習した後、「学習したことを生かして書こう」欄で、硬筆の練習をすることにより、毛筆と硬筆の関連を図っている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」等を、写真を使って解説している。 ○巻末の「資料編」には「日常の書式」「活用のヒント」「書写事典」「書き初め」を、また、各学年の単元末を中心に文字や書に関する「コラム」を写真図版と解説を交えて掲載している。 ○「常用漢字一覧表」「部首別行書一覧」は楷書体と行書体を併記している。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の手本には、△印を上下に置き、中心を示している。「点画の種類と筆使い」で、筆圧を「3の力、2の力、1の力」と表記している。「漢字の筆使い」では、「始筆『トン』、送筆『スー』、終筆『トン』」と表記している。学習目標と振り返りを別枠で示し、その他のポイントは、案内役のキャラクターが示している。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。手本は見開き2ページの構成で、右ページでポイントを押さえ、左ページの手本で、毛筆に取り組めるようになっている。「学習の窓」で学習のヒントを示し、基礎・基本を身に付けさせるようにしている。「コラム」では、文字の歴史、季節の言葉を書いて味わう、デザインと文字といった書写に関する発展的な内容を取り上げている。「日常の書式」「活用のヒント」では、生活や各教科の発展学習の内容を掲載している。 	